

給食の放射性物質測定の結果について

○給食提供年月日 平成23年12月20日（火）

【検査結果の表示方法】

- 検出された場合には、その測定値を表示しています。
- 「<0.0」と表記しているのは、検出下限値（検出できる最小の値）未満であることを表しています。（例えば、「<1.2」とは、放射性物質の値が、0から1.2未満の範囲内です。）
- 検出下限値は、検査対象の給食の内容（水分の比率等）や自然界に存在する他の放射性物質（主にはカリウム40）の含有量等によって変動するため、検体ごとに数値が変わります。

【検査結果】

【調理済み給食】

施設名	献立	測定結果 単位：Bq/kg		
		放射性 ヨウ素-131	放射性 セシウム-134	放射性 セシウム-137
文京福祉センター	ごはん、きりたんぼ汁、擬製豆腐、大根おろし、魚のホイル焼き、酢の物、杏仁豆腐	<0.9	<1.0	<1.1
ピノキオ幼児舎茗荷谷園	岩石揚げ、パン、ビーンズスープ、オープンオムレツ、野菜のマヨネーズ和え、牛乳	<1.1	<1.1	<1.4
ちゃいれっく新大塚駅前保育園	りんごケーキ、ごはん、鶏肉の中華炒め、ナムル、春雨スープ、オレンジ、牛乳	<0.8	<1.2	<0.9
同仁美登里保育園	芋ようかん、ハヤシライス、ベーコンとかぶのスープ、豆サラダ、りんご、牛乳	<0.9	<1.0	<1.0
ぼけっとランド本郷	おからクッキー、食パン、豚肉と白菜のコンソメ煮、ブロッコリーとコーンのチーズ焼き、ミネストローネ、オレンジ、牛乳	<0.9	<1.1	<1.2
モニカ茗荷谷	野菜チップス、みかん、牛乳、カレーライス、玉子サラダ、野菜スープ	<1.0	<1.1	<0.9

グローバル キッズ春日園	いちご蒸しパン、ごはん、清汁、 さわらのごま焼き、里いものそ ぼろ煮、みかん、牛乳	<0.9	<1.0	0.9
本駒込プチ・ クレイシュ	大学芋、牛乳、ごはん、みそ汁、 和風ハンバーグ、ひじき煮	<1.1	<1.3	<1.1
保育所まあむ 東大前園	いもようかん、せんべい、 マーボー豆腐、中華風ごま和え、 野菜スープ、バナナ、ごはん、 牛乳	<1.1	<1.2	<1.3
なかよしの家 保育園	卵チャーハン、もやしとにらの スープ、キウイ、芋ごはん、 みそ汁、鮭の塩焼き、大根おろ し、浅漬け、みかん、牛乳	<0.9	<1.0	<1.2

【牛乳】

施設名	測定結果 単位：Bq/kg		
	放射性 ヨウ素-131	放射性 セシウム-134	放射性 セシウム-137
文京福祉センター	<1.2	6.7	8.7
ピノキオ幼児舎茗荷谷園	<1.0	<1.1	<1.1
ちゃいれっく新大塚駅前保育園	<0.8	<0.8	<1.2
同仁美登里保育園	<1.0	<1.1	<1.2
ぼけっとランド本郷	<0.9	<1.0	0.9
モニカ茗荷谷	<0.8	<0.9	<0.8
グローバルキッズ春日園	<1.0	<1.1	<0.9
本駒込プチ・クレイシュ	<1.0	<1.1	<1.2
保育所まあむ東大前園	<1.0	<1.0	<1.1

【今回の調理済み給食の測定値を基に年間累積放射線量を計算してみると】

検出された施設の給食（セシウム 134 が $<1.0\text{Bq/kg}^*$ 、セシウム 137 が 0.9Bq/kg ）の例で、一食当たりの実効線量は、 $0.0123\ \mu\text{Sv}$ となります。

※ $<1\text{Bq/kg}$ の核種については、検出下限値と等量含まれていたと仮定して計算しています。

この給食を1日3食、一年間摂取したと仮定した場合の食品による年間累積放射線量は、 $0.0123\ \mu\text{Sv} \times 3\text{食} \times 365\text{日} = 13.4685\ \mu\text{Sv} \approx 0.0135\text{mSv}$ （注） となります。

【今回の牛乳の測定値を基に年間累積放射線量を計算してみると】

検出された施設（福祉センター）の牛乳（セシウム 134 が 6.7Bq/kg 、セシウム 137 が 8.7Bq/kg ）の例で、一回当たり（ 60ml ）の実効線量は、 $0.0105\ \mu\text{Sv}$ となります。

この牛乳を1日3回、一年間摂取したと仮定した場合の食品による年間累積放射線量は、 $0.0105\ \mu\text{Sv} \times 3\text{回} \times 365\text{日} = 11.4975\ \mu\text{Sv} \approx 0.0115\text{mSv}$ （注） となります。

以上の値は、厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している年間 $1\ \text{mSv}$ と比較して、極めて低い数値です。

（注） $1\text{mSv} = 1000\ \mu\text{Sv}$

（参考） 給食1食分の内部被ばくの実効線量は、国際放射線防護委員会が示す実効線量係数から算出しています。

ベクレル（**Bq**）は、放射能の強さを計る単位で、シーベルト（**Sv**）は、人間が放射線を受けた場合の影響を示す単位です。

現在の食品に関する暫定規制値は、放射性セシウムで年間5ミリシーベルトを基準に設定されています。この暫定規制値については厚生労働省から、年間1ミリシーベルトを基本に設定を見直す方向性が示されています。